

ウイルス対策の重要なポイント

～高病原性鳥インフルエンザに備えて～

高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) が発生すると、発生農場のみならず養鶏産業全体においても多大な被害が生じる。昨年度は全ての家きんから野鳥と同じタイプのウイルスが検出された。今号では、HPAIの発生を未然に防ぐために、最新の調査から判明した効果的な対策方法を紹介する。

●昨シーズンのHPAI発生状況

2016年度、国内では9道県12農場の家きんで高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)が発生した。更に、野鳥(糞便や環境試料を含む)からのHPAIウイルス検出数は過去最多となる22都道府県218例に及んでおり、日本中に蔓延していたことが示唆されている。

家きんと野鳥から検出されたHPAIウイルスは全てH5N6亜型であり、このウイルスはカモ類の「渡り」によって、国内に持ち込まれたものと推測できる。周辺諸国の状況から見ても、国内での発生リスクは引き続き高いため、飼養者には適切なHPAI対策の実施が

求められる。

●野生動物・野鳥対策

疫学調査の結果、近隣に水辺(池、沼、川)が存在する農場ではHPAI発生リスクが高くなる事が明らかとなった。

その理由としては、水辺においてHPAIウイルスに感染した渡り鳥から農場付近の野生動物・野鳥にウイルスが伝播し、これらが農場内及び鶏舎内にウイルスを持ち込む可能性が考えられる。また、発生鶏舎の壁や天井に野生動物・野鳥などが出入り可能な「隙間」が、多くの事例で確認された。このように、農場内には多様な野生



動物・野鳥が侵入している一方で、飼養者はその侵入を認識できていない場合が多い。

野生動物・野鳥を鶏舎に入れないためには鶏舎の隙間や防鳥ネットを定期的に点検し、破損箇所は速やかに修繕する必要がある(写真1、2)。更に、水辺に忌避テープや防鳥ネットを設置する事も渡り鳥対策に効果的である。

●人・車両・資材・水による汚染対策

農場周辺に存在するウイルスが人・車両・資材・水に付着して農場内及び鶏舎内に持ち込まれる可能性がある。対策例を表に記載してある通り、飼養衛生管理基準に基づき、各農場で持続可能な対策方法を策定して、農場関係者全員に周知・徹底する事が重要となってくる。

●早期通報が重要

あらゆるHPAI対策を実行したとしても、発生リスクをゼロにする事はできない。万が一HPAIを疑う状況に遭遇した場合、管轄の家畜保健衛生所への早期通報が蔓延防止につながる。そのためには、常日頃からの飼育動物の健康観察に気をつけていただきたい。



<http://jacnet.zis-ja.com/tori-influenza.html>

詳細情報はここからご覧いただけます

写真1.防鳥ネットと屋根の隙間

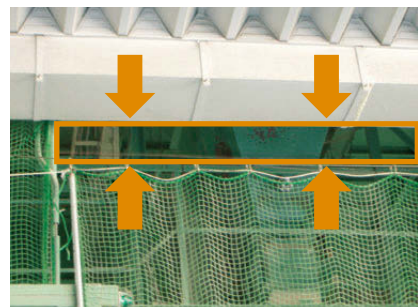


写真2.ネズミが侵入可能な外壁の穴



表.主な高病原性鳥インフルエンザ防疫対策

① 野生動物・野鳥の鶏舎への侵入防止及び給水源への接近防止
② 水道水以外の水を給与している場合の飲水消毒
③ 農場出入りに踏込消毒槽を設置、農場周囲に消石灰を散布
④ 農場への部外者の立入制限、出入りする車両の消毒
⑤ 農場従業員等の衣服・靴の交換、手指の消毒
⑥ 飼養鶏の健康観察の徹底
⑦ 海外渡航時の防疫注意

照明管理が繁殖成績に及ぼす影響

～母豚に対する照明管理～



秋は最高・最低気温の差が大きくなり、日照時間が短くなるなど、気候の変化が大きい季節である。そのため、農場での飼養管理には特に注意が必要。中でも豚舎の明るさは母豚の繁殖成績に影響を与える。今回は、母豚に対する照明管理のポイントを紹介する。

●照度と照明時間の管理

季節の変わり目は、気温だけでなく日照時間も大きく変化する。照明は母豚の繁殖成績に影響を与える環境条件であるため、日が短くなるこれからの季節に向け、ウインドウレス豚舎の場合も含め、改めて照度についての理解を深め、適切な照明時間を確保していきたい。

●照明管理のポイント

照度とは、対象物を照らす明るさの指標であり、ルクス(lx)として数値化される(表)。照度は照度計により簡単に測定する事ができる(写真1、2)。



写真1.照度計



写真2.照度測定

養豚において、日照時間や照度の不足は、母豚では離乳後の発情再帰日数が延び、哺乳子豚では育成率が低下するとされる。夏から秋にかけて日照時間は徐々に短くなっていくため、豚舎内で十分な照度が確保できているか確認が必要となる。

母豚に対する照明管理のポイントは以下を参考にされたい。

- ①母豚の頭上に照明を配置する。(写真3)。
- ②妊娠舎では、220～250ルクスの明るさで1日14時間点灯する。
- ③分娩舎では300～350ルクスの明るさで1日16～18時間点灯する。

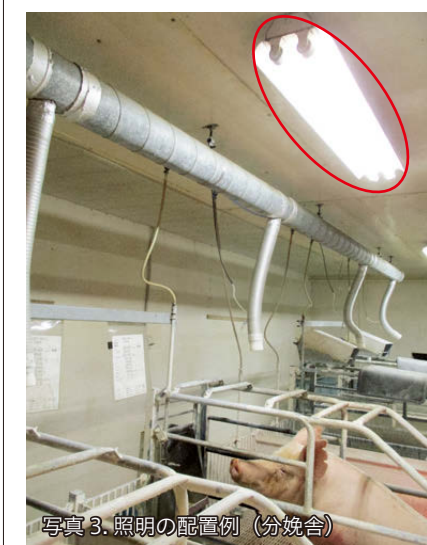


写真3.照明の配置例(分娩舎)

表.住宅照度基準(JIS規格により抜粋)

	(lx) 2,000	1,500	1,000	750	500	300 ~350	200	150	100	50
住宅	○手芸 ○裁縫 ○ミシン			○調理台 ○食卓						
	○読書 ○勉強 ○電話 ○化粧			○テーブル ○座卓			○玄関 ○飾り棚 ○洗濯			
	全般									

④タイマー等で照明時間を管理し、季節による影響が生じないようにコントロールする。

⑤照明は白熱電球、蛍光灯のほかLED照明も可。

⑥壁を白くすると反射により明るさが増す。

●照明時間を適切に

実は分娩舎の照明を作業時以外に消灯するのは間違いである。実際の試験結果からも、母豚については、照度や照明時間の不足が、発情再帰日数や子豚の育成率に影響する事が裏付けられている(図)。

300ルクスは本が読める程度の明るさである。照度が不足している場合は、蛍光灯の汚れが影響している事もあるので、定期的な点検・清掃・交換が必要である(写真4)。

図.照明時間が母豚の発情再帰日数と子豚の育成率に及ぼす影響

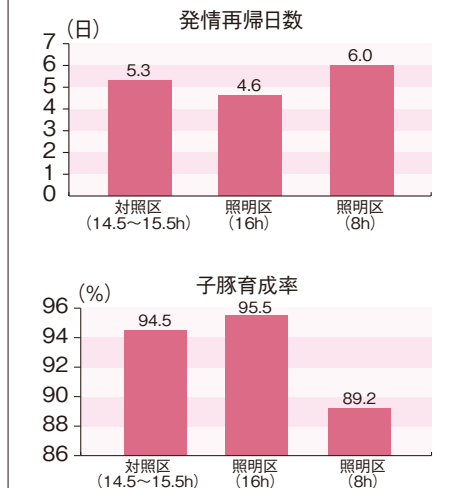


写真4.蛍光灯の汚れ